

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄県における成人市中肺炎と医療介護関連肺炎の病原微生物および臨床像の比較解析

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Gretchen, Parrot メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/44125">http://hdl.handle.net/20.500.12000/44125</a>

(別紙様式第3号)

## 論 文 要 旨

論 文 題 目

Etiological analysis and epidemiological comparison among adult CAP and NHCAP patients in Okinawa, Japan

(沖縄県における成人市中肺炎と医療介護関連肺炎の病原微生物および臨床像の比較解析)

氏 名

*Julien Parrott* 

【背景】医療介護関連肺炎（NHCAP）は我が国特有の医療事情を反映した独自の疾患概念である。NHCAPの原因微生物や臨床像に関する研究報告は少なく、これらを明らかにすることは重要である。本研究では、成人市中肺炎（CAP）とNHCAPにおける病原微生物の検出状況、予後因子、抗菌薬使用状況などを比較検討した。

【方法】琉球大学医学部附属病院を受診あるいは入院した200人の肺炎患者（CAP:97人、NHCAP:103人）を後方視的に解析した。病原微生物の推定はグラム染色、そして病原微生物の特定には細菌培養、血清抗体価、尿中抗原検査が用いられた。

【結果】71%の患者で何らかの病原体が検出され、うち52%（104/200）は肺炎の原因微生物と考えられた。多くの患者において、肺炎球



菌 ( 32/200 )、インフルエンザ桿菌 ( 22/200 )、  
モラクセラ・カタラリス ( 16/200 ) が検出され  
た。病原微生物が特定できなかつた患者 96 人  
のうち、38 人ではグラム染色所見を根拠に抗  
菌薬が選択されていた。非定型病原体が検出  
されたのは 5 人であったがすべて CAP 患者であ  
った。重回帰分析の結果、肺炎の重症度に関  
連する因子として男性 (  $p=0.006$  )、慢性心不全  
(  $p<0.001$  )、慢性閉塞性肺疾患 (  $p<0.001$  ) が挙げ  
られた。長期入院のリスクファクターは慢性  
心不全、慢性腎不全、他の呼吸器疾患、糖尿  
病であった。NHCAP 患者の 30 日死亡率には肺癌  
と気管支拡張症が関与していた。CAP 患者の入  
院は冬に多かったが、NHCAP 患者の入院は季節  
を問わず通年性であった。それぞれの病原微  
生物の検出時期には季節性は認められなかつ  
た。

【結論】グラム染色は肺炎の起炎菌推定に有  
用であることが本研究からも示された。CAP お



よび NHCAP の病原微生物に大きな違いはなかった。  
したがって、臨床経過に影響を及ぼす基礎疾患の管理が重要と考えられる。本研究では、ガイドラインに準じない抗菌療法は臨床経過に影響していなかった。